

令和6年8月8日発信

【発行・編集】

J A兵庫六甲三田営農総合センター

お問い合わせ先：079-563-4192

三田稲作情報

～ 水稲病害虫発生予察情報 ～

8月2日に、生育調査及び病害虫発生予察調査を実施しました。

＜生育調査結果と直近の管理＞

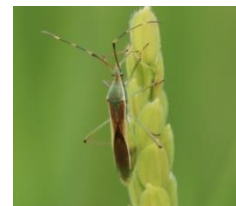
コシヒカリの生育は、草丈が昨年よりやや高く、茎数は昨年並みで、出穂期～穂揃期を迎えていますので、ごく浅水の湛水状態を維持してください。登熟期からは飽水管理を実施しましょう。山田錦の生育については、草丈・茎数ともに昨年並みです。幼穂形成期に入っており、幼穂長は平均2mm程度で、早いところでは6mmのほ場もありました。水利状況を踏まえながら、飽水管理に切り替えましょう。出穂期～穂揃期は水が必要な時期になりますので、浅水の湛水状態を維持しましょう。

品種	令和6年		令和5年	
	草丈 (cm)	茎数 (本)	草丈 (cm)	茎数 (本)
コシヒカリ	115.4	21.6	107.2	21.6
山田錦	74.5	21.6	76.0	22.3

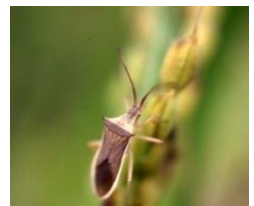
(コシヒカリ6カ所平均 山田錦5カ所平均 1ほ場あたり10株調査)



イネカメムシ



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

＜病害虫発生状況＞

病害:いもち病が一部ほ場で見られましたが、少ない状況です。

害虫:ウンカ類では、セジロウンカ・ヒメビウンカの発生が見られます。空中散布での防除を実施した圃場では、若干見られる程度ですが、今後も注意が必要です。(県の発生予想ではやや多いとされています。)

斑点米カメムシ類について

兵庫県病害虫防除所より、斑点米カメムシ類の注意報が発表されました。8/2の調査では捕獲できませんでしたが、三田市内や他地域で多数のイネカメムシを確認しています。

三田地域では、空中散布での防除を随時実施していますが、1回目(キラップフロアブル)の散布後1週間～10日後に、まだカメムシ類が見られる場合はスタークル粒剤(3kg/10a)の散布を推奨いたします。

＜今後の管理について＞

コシヒカリは出穂～穂揃期です。生育ステージに合わせた水管理を徹底しましょう。山田錦は2回目の穂肥散布時期(分施型)が近づいています(出穂10日前頃)。ほ場での幼穂の長さを確認し、適期施用を行いましょう。出穂期前後は特に水を要する期間です。飽水管理を行いましょう。

＜その他＞

兵庫県内で既にトビロウンカ(秋ウンカ:ツボ枯れを起こすウンカ)が確認されています。例年より確認が早く、坪枯れ発生への懸念が高まっています。ほ場に入って株元をよく観察し、害虫が多く見られた場合は、営農相談員までご相談のうえ、必要に応じて薬剤防除を実施しましょう。

1株で多発している
イネカメムシ



令和6年7月17日発信

【発行・編集】

J A兵庫六甲三田営農総合センター

お問い合わせ先：079-563-4192

三田稲作情報

～ 水稲病害虫発生予察情報 ～

7月11日に、生育調査及び病害虫発生予察調査を実施しました。

<生育調査結果と直近の管理>

コシヒカリの生育は、草丈は平年より高く、茎数は昨年より少ないです。すでに幼穂形成期に入っており水が必要ですので、間断灌水で管理を行ってください。

品種	令和6年		令和5年	
	草丈(cm)	茎数(本)	草丈(cm)	茎数(本)
コシヒカリ	81.5	21.8	79.8	28.0
山田錦	50.0	22.0	61.1	21.0

(10株調査 1ほ場あたり)

山田錦の生育については、草丈は昨年より低く、茎数はほぼ昨年並みです。中干し時期に入りますので、早めに圃場を確認して、10日～1週間程度実施しましょう。

全体的に田植え後の活着による生育のバラつきが見られますので、活着が悪いと感じる圃場では中干しの延期を検討してください。

<病害虫発生状況>

病害：一部圃場でいもち病の発生を確認しました。害虫：降雨の為、害虫の調査は実施できませんでしたが、九州方面にてセジロウカの発生が報告されていますので、今後管内での発生に注意が必要です。

<今後の主な病害虫防除について>

【いもち病】

いもち病は日照不足や多雨により感染しやすくなります。7月に入ってから、いもち病好適条件が発生している日もありますので、県 BLASTAM 情報を確認しながら発病ほ場では基幹防除に加えて、下記の臨機防除も検討して下さい。



穂いもち病斑写真

薬剤名	適用病害虫	10aあたり使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
コラトップジャンボP	いもち病	小包装(パック)10～13個(500～650g)	葉いもちに対しては初発20日前～初発時 穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる	2回
コラトップレボン粒剤		3～4kg	出穂5日前まで	散布(湛水深3～5cm)	

※詳しい登録内容については、ラベルをご確認ください。

【カメムシ類】

出穂の2週間前までには畦畔などの草刈を終えるようにしてください。出穂期に畦畔刈を行うとカメムシ類を本田に侵入させることになり、斑点米の原因となりますので、下記薬剤を参考に防除してください。薬剤の種類によって使用時期が異なりますので、登録内容を十分確認しましょう。

薬剤	使用量 (/10 a)	散布時期
スタークル粒剤	3kg	出穂5日後
スタークル豆つぶ	250 g	収穫7日前まで

△ 三田ではイネカメムシ対策として、空中散布での2回散布を推奨しています。個人散布の方でイネカメムシを発見された方は、営農相談員までご相談ください。

<今後の管理について>

【出穂前後の水管理】

中干しが終わったら幼穂形成期に入り、飽水管理を行います。ただし、出穂開花期とその前後は水を多く必要とする時期のため、湛水管理をしましょう。

令和6年7月1日発信

【発行・編集】

J A兵庫六甲三田営農総合センター

お問い合わせ先：079-563-4192

三田稲作情報

～ 水稲病害虫発生予察情報 ～

6月28日に、生育調査及び病害虫発生予察調査を実施しました。

＜生育調査結果と直近の管理＞

コシヒカリの生育は、草丈は平年より低く、茎数は昨年と同程度です。6月に入ってから気温が高く、茎数が増えたと考えられます。また、既に中干しの時期に入っています。茎数が16～17本/株程度確保

品種	令和6年		令和5年	
	草丈(cm)	茎数(本)	草丈(cm)	茎数(本)
コシヒカリ	49.8	21.2	51.9	19.0
どんとこい	39.7	11.4	44.6	22.4
山田錦	34.7	7.2	34.9	16.4

(10株調査1ほ場あたり)

出来ていたら、天候を見て1週間～10日間程度実施してください。

山田錦の生育については、草丈はほぼ昨年並みですが、茎数は昨年より少ないです(田植え日が昨年と異なります)。中干し時期が近づいていますので、タイミングを逃さないよう、時期の再確認をお願いいたします。

＜病害虫発生状況＞

病害:特に目立った病害の発生は確認されませんでした。

害虫:大雨の為、害虫の調査は実施できませんでした。※北部の一部地域ではイネドロオイムシの発生が確認されています。

＜今後の主な病害虫防除について＞

薬剤名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
なげこみ トレボン	イネミスゾウムシ	水溶性容器4～6個 (200～300mL)/10a	5葉期以降 収穫21日前まで	3回以内	本田に 水溶性容器 のまま投げ 入れる。
	イネドロオイムシ				
	ウンカ類	水溶性容器10個 (500mL)/10a			
	ツマグロヨコバイ				
	ニカメイチュウ第1世代				
	イナゴ類	水溶性容器6～10個 (300～500mL)/10a			
イネクサメムシ					

※イネドロオイムシについては加害最盛期被害葉率 20%以上で防除が必要となります。

＜雑草対策について＞

広葉・イネ科雑草がたくさん発生しているほ場は下記防除が必要です。

薬剤名	10a当たり使用量	散布時期	使用方法	総使用回数
クリンチャー バスME液剤 (移植水稲)	薬:1,000ml 水:70L～100L	田植え後15日～ ノビエ5葉期 (但し収穫50日前まで)	落水散布又は ごく浅く湛水して散布	2回以内

＜今後の管理について＞

【中干しとその後の水管理】

28日の雨で深水になっている圃場が多いため、浅水管理にして、茎数が目標の80%に達したら中干しに入ってください。中干しにより無効分げつを抑制し、粒張りを確保しましょう。さらに、中干し終了後は足跡に水がたまるくらいの飽水管理をできる範囲で行い、根の活力を維持しましょう。ただし、幼穂形成期(出穂30日前)には中干を終えるようにしましょう。